

令和3年10月20日 議会改革特別委員会 議事録
9時58分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さんおはようございます。

今日は議長が公務のため欠席ということで、よろしくお願ひいたします。それから、中国新聞からカメラ撮影の許可をいただきたいということなので、許可いたしましたのでよろしくお願ひいたします。

それでは、定足数に達していますので、ただいまより議会改革特別委員会を開会いたします。

日程第1から始めさせていただきます。

日程第1、決算審査と議会提案についてでございますが、もうこちらはほとんど決算特別委員会のほうにバトンがタッチされとるような現状でございますので、簡単にこれまでのいきさつと申しますか、説明させていただければと思います。

決算特別委員会もこの14日をもちまして終了いたしまして、大変よかったですと思います。その後、決算特別委員長から、これからの予定と申しますか、それを簡単に説明されました。その中で10月25日までに1つの項目を会派で選ぶということでございます。それを事務局に提出していただきますということがまず第一。それから11月2日に10時から決算特別委員会を開催するということと、項目が議会で決定されれば、12月定例会最終日に上程という運びとなっておりますが、今日は決算特別委員会の委員長も出席されておりますので、以上の説明で簡単にでよろしいですか。

○日域委員 はい。

○網谷委員長 よろしいということで、一応そういうスケジュールになっております。

それからもう一度確認しますが、これは前委員会の、8月18日以降最終の議会改革特別委員会でございますが、簡単に決まりごとを説明させていただきます。

決算特別委員会審査終了、会派に提案の要請、それから会派で意見調整し、1項目だけ文書で事務局に提出すると。それから、また提出したら決算特別委員会の意見を集約するというところでございます。それから、これはどれだけの項目が出るか分かりませんが、その決定を議長、決算特別委員長と常任委員会の両委員長、この4名で選定をするという運びとなっております。ただ、今回の場合は、決算特別委員長と常任委員長を兼ねておりますので、3人ということになりますが、よろしくお願ひいたします。

ということで、本会議へ決算特別委員長より提案という運びになっております。それか

ら、その中の具体的な要素といいますか、これに係り二、三挙げてみました。試行はあくまで試験的に会議の流れを確認するものであって、決議の実現ありきではないということでございます。それから、本会議決議で提案することの運用、この重みというのが一番重視されるところで、重みを意識しながらテーマを選定する必要がある。それからもう一個、絶対にテーマを出さなければいけないということではございませんので、しっかり各会派で持ち帰って吟味していただき、事務局へメールで提出していただきたいということでございます。

以上で、基本的なことですが報告させていただきます。

決算特別委員長、それでよろしいでしょうか。

○日域委員 はい。

○網谷委員長 ということですので、よろしくお願ひします。

この件に関しては、この程度でよろしいかなと思います。ほとんど決算審査と議会提案については、もう議会改革からは手を離れたという意識でよろしいかと思います。そのようなことで、これからは決算特別委員会の委員長のほうにお願いするということで、この件は一応議会改革の中では決定ということにさせていただいてよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ということ、決定させていただきます。

次に、日程第2、活動方針及び活動計画（スケジュール）についてでございますが、サイドブックを見ていただければと思いますが、皆さんの会派からの提言と、それから小中委員と北地委員に、このたび貴重な資料を提供いただきまして本当にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。こちらサイドブックに載っておりますので、確認していただければと思います。

委員長、私の案としましては、簡単な活動計画を表にしました。優先順位は、皆さん、一番気にとめている議員定数の問題です。その中で、議員定数の問題を一応この表の中では10月から来年の遅くても12月には決定したいということでございます。というのも、定数の数字が変わらなければ、そんなに急ぐこともなし、そんなに期限を決めることもないんですが、ただ定数の数字が変わった場合は、次の選挙令和5年ですかね。この時期までには結論出さなきゃいけないということ、私なりに判断しました。

そのようなことで、前回市議選が無投票という結果を踏まえて、委員の皆さんの意識の中では大変大きな部分を占めてるのではないかと思います。そういうことで優先的にこのたび審議を進めたいと思います。ただ、これ1本になっておりますが、そうは申しても審議する中でいろんな協議しなければならぬ課題が出てくると思います。そうした場合は、並行してそちらも協議してまいりたいということですので、御理解いただきたいと思ひます。

それから簡単ではございますが、来年度12月に結果が出たとしますと、それ以後は今まで、前委員の皆さんが提言していただいた項目が残っておりますので、そちらも審議していただければと思います。その前委員会の項目というのが、タブレットでは令和元年11月19日に載っていると思ひますが、15項目載つると思ひますので、その辺のところの、今

の現在ではある程度決定ということで、議長指導のSNS発信の、それから委員会のネット中継、これも一応決定。それから自由討議の制度導入でございますが、一応常任委員会両委員長には、いつでもできるようなスタイルになっているものと思います。そのようなことで、委員の皆さんがこれを自由討議しようかとなりますと実行できる手はずになっておりますので、その辺のところは了承していただければと思います。

それから今回の決算特別委員会の意見を、議会提案というのも先ほど申しましたように一応決定という段取りになりましたので、一応4つは2年間で決まりましたということでございます。そのほかの協議につきましては、先ほども申しましたように、議員定数を主体に協議する中で並行して、喫緊の課題が出ますとそれに並行して協議していけばと思います。

以上で、私の案と申しますか、今の考え方を述べさせていただきましたが、それに対して何か、それじゃいけん、これはこうせないけんというところがありましたら、意見をいただければと思いますが。

小田上委員。

○小田上委員 すみません。意見、各委員ですか、うちは会派代表して西村委員が出してくれてますけど、これみんなで確認する場というか、というのは特になくですか。この後確認して。

この中には、定数のことに触れられていない意見というものもあったりしたんで、委員長が示されたスケジュールのとおりで全員納得して進むのかどうかというところもよく分からなかったんで、そこを確認したかったです。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

今、小田上委員から指摘がございましたように今、言い忘れとったことがございまして、今回皆さん方に会派としての、意見を述べていただくように、9月30日までに議会事務局のほうに提出していただくということで、その中で先ほど申しましたこの15件ですよ。この中以外に含まれるものがなかったということで、今の議員定数市民アンケート、議会報告会での意見、これに議員定数の場合は入りますので、新たに載せるような項目、皆さんの中から意見としてなかったと私は解釈しております。

それで、ただ、次のその他で述べようかと思いましたが、ただ1件、これは一応15の項目に入るんですが、今までの、これはいじゃ話が一緒になりますので、一括としてその他も入れて申し上げます。この中で提出が遅れたんですが、くろがねさんから、テレビ中継、ネット中継の中に入ろうかと思いますが、今までは常任委員会2つが、YouTubeので放映されとると思いますが、これを決算特別委員会また予算特別委員会も入れてはどうかという意見が出ております。これを皆さんと協議したいんですが、それは後から述べようと思ったんですが、その前に今、小田上委員が言われたように、それ以外は15項目の中に全部入りますので、それであえて募集の紹介をせんかった、今回の募集の提案の結果を紹介していなかったということでございます。それで小田上委員まだ、納得できますか。できるでしょう。どうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 この提出しているものを見るだけでもいいんですけど、前回の流れでいくと、定数ありき、定数のことを考えるのはもう考えるでもいいんですけど、定数の話をするにしろしないにしろ、やっていきますよという明確な決定を前回しなかったと思うんで、取り組んでいかなきゃいけない課題だと思っていると議長からも言われましたけど、まずそこをやりまますよという決定をしていただかないといけないのかなと。今回、今日、委員長が示されたやつでもう結果そうなるんでしょうけど、ありきになるのはよくないのかなと思って、その確認を皆さんのもらった意見を紹介しながら話をしていって、決めていくのかなと思ってたんで、そこを整理していただけたらと。

○網谷委員長 そうですね。はい、分かりました。

これあくまでも委員長の案でございますので、まずこの案として定数問題をトップに私自身持ってきたんですけど、皆様の気持ちを察しましてね。それで最初からの皆さんの、もちろん承諾をいただかなければいけないんですが、これをまず、この前に諮っていたければと思います。今のこの定数問題を私が優先的に持ってきたということに対しての意見は、皆さんの意見を拝聴していただきたいと思いますが。

小中委員。

○小中委員 まさしく定数問題というのは、現状のままであるにしろ定数削減するにしろ、喫緊の問題であるので、委員長がここに示されている案で当然だと私は考えます。

それで現実問題として、その中では、例えば削減するとか何かで、例えば市民からパブコメを取ったり、アンケートしたりしなければいけないという診断って出てくると考えられますので、なおかつ定数削減するためには条例を制定しなきゃいけないので、そんないろんなことをやるとする時間は私はないと思います。

それで、いやもう今度、だから我々は無投票で当選したわけですが、4年間何をどういうことに賛成したりした、反対したりというか、市民の我々の4年間に対する勤務評定というものは示されてないわけです。それを示すものが選挙なので、今度無投票になったらもう本当天下に恥をさらすということになりますので、次も無投票になるということは、私は絶対避けなければいけないと思います。

私は日本国勢図会から4万人以下、1万8,000人ぐらいの人口を抽出して、それから全部ネットで9月30日現在の人口とか議員報酬とか面積とか調べたわけです。それは一応参考で、例えば16人多いか少ないかというのは非常に微妙なところでもありますけど、それは大した問題じゃないんです。16人であろうが何ぼでも。でも必ず選挙にするためには、もう今の状況だと定数削減するしかない。例えば私も今日、期日前投票しましたが、最高裁判官には4年に1回国民審査というのが、分からん人が多いだろうからほとんど白紙で出す人が多いかもしれませんが、ちゃんとそういう審判を受けているわけです。審判を受けないで、その次も無投票で8年もやろうというのは非常識も甚だしいと思います。そういうことから考えましても、私は定数削減派ですけども、定数削減じゃなかったら、削減じゃないという結果が出たら、私は次の選挙戦では定数削減を争点にして戦おうとは思っております。

以上です。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。よろしいですか。

藤川委員。

○藤川委員 すみません。小中委員の意見とはまた違うところもあるんですけども、まず議員定数、今からの協議していくことに対してはもう大賛成です。一応会派に持って帰っても、もう私たちの会派では、まずは議員定数についての話し合いと。委員長のこの計画で私は賛成です。

以上です。

○網谷委員長 ほかに。

日域委員。

○日域委員 定数というのは、どういう決まりがあるんですか。私、正直言いまして、選挙、地方自治体じゃないですけども、社会福祉協議会の定数を見ると評議員の数は幅があるんですよ。私から見たら何じゃいこれと思うんですけども。この地方自治体の定数ですよ、議員の。これは1つの数字、確定なんですか。

私、思うんですけど、選挙が、前どこかで言いましたけど、定数どおりだから無投票でしたよね、この前は。1人落とせやと前から思うんですけど、そんなことを決めたら結構脚光浴びるんですけども、そんなことは多分総務省がノーと言うんかなとは思いますが。

正直言いまして、選挙にならんと困るといのは、私も全く賛成です。ただ、じゃけんと言うて、大幅に減らして、減らせばいいかって、そうでもないような気がしますし、頃合いが分からんじゃないですか。弾力的な定数というのは、法的に不可能なんですかね。総務省に聞いてほしい気がしますけども。でも、無投票というのは正直がっかりですから、有権者から見たら。そこは避けてほしいと思います。この中で選挙落ちたことがある人は3人いますけど、選挙ってやっぱり通ったり落ちたりするから選挙なんです。落ちない選挙というのは面白くないですからね。

以上です。

○網谷委員長 ただ、日域委員、選挙は確かならなければいけないというのはよく分かるんですが、そのために今、小中委員の場合は定数を削減するという意見なんですがね。日域委員は選挙をしなければならないというのは理解できるんですが、それに対する抱負は聞き取れなかったんですが。

日域委員。

○日域委員 定数下げてもいいんですよ、もちろん。定数下げてもいいですけども、でもそれでも、例えば今から、私、昔5人でいいと思ったこともあります、正直個人的にはね。でも今16人で、常識的に考えて1人減らすか、2人減らすかというぐらいのもんだと思いますけども、でも仮に立候補者が2人減ったら、また無投票なんですよ。小中さんの文章見ると、やっぱりそれでも格好悪いわけですよ。たとえ立候補者が10人しかいなくても、必ず1人落ちるというルールがもしできるのであれば、必ず選挙ありますからね。そういうことは例がないから駄目だろうとは思いますが、法的に本当に不可能なんかどうかというのは、これ仕切ってるのは総務省ですから、委員長ぜひ確認を取ってください。お

願います。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 市政のあらましの令和3年版の13ページに、選挙と定数という項がありまして、市の合併の一番最初は、これは広域合併だったかどうか知りませんが、73人なんですよ。大体実質30人から始まって、今16人までになったその経緯というのが書いてありますので、これは大竹市の場合だということですので御参考にとしまして。

多分、定数がどのくらい、決まりとかはないと思いますよね。だから例えば、じゃあ定数を増やして議員報酬を半分にするとかという、そういう考えだってないことはないわけですよ。私は、だから私の作った表に一番最後に、議員報酬のレンジに該当する市の全部調べたのは、例えば2人ぐらい減らして報酬を増やそうという意見とかが出てきたら、私はとんでもない話だなと。というのは、大竹市の37万円というのは、中四国での該当するところ見ても、そんなに低くはないわけですよ。広島県の中で一番高いわけですよ。だから40万円というのは、善通寺市が40万円だったかな。それで東かがわ市、これは多分広域合併だろうと、これ43万円で、岡山県の浅口市が40万円というのが見られたぐらいで、大竹市の37万円というのは決して低くないということだけは、肝に銘じていたきたいと思います。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

ほかに。原田委員。

○原田委員 今、多分スケジュールの話だと思いますので、以前、前回の議会改革特別委員会のときに同僚の委員がおっしゃったように、1本でいくべきという、私はそのときは反対と言ったんですけど、ちゃんとそのほかは、令和5年にいろいろと組み込まれておりますので、やっぱり1本で令和4年12月まで、この工程表どおりのスケジュールどおりで、1本でいくべきだと私は思っております。

○網谷委員長 1本でいくと言うと同時に、それだけではないので、その途中で喫緊の課題が出たらそれにも対応せないけんということですので、よろしいですかね。

ほかに。北地委員。

○北地委員 新参者なので、一番最初から質問させてもらいたいと思うんですけども、この15項目をこれから審議していくということでもよろしいですよ。

○網谷委員長 はい、よろしいです。

○北地委員 それで思うのが、2番、SNSの発信というのは決定されて、もうこれはやられと。議長が出すわけですよ。それで4番のテレビ中継、ネット中継、これも決定。これはもう審議なしということですよ、これからは。でも先ほど言われたように、予算特別委員会、決算特別委員会もやったらいいんじゃないかという御意見もあったように伺いました。これサイドボックスにも載ってるわけで、その意見も。だったらこれはいつするのかなと。

それと、傍聴する中では、今、常任委員会だけなんですけども、ほかの委員会はどうするのかとか、そういう意見もあったと思うんですけども、これを広げていきたいという意

見があったと思うんです。その辺はどう扱うのか。これはもう審議しないのか。その辺質問です。

それと、5番目、先ほどからずっと出とりますけども、もう内容に入っていくような勢いではございますけども。議員定数について審議することはやぶさかでないんですけども、この表現でいくと、議員定数市民アンケート、これをするのか。議員報告会で意見交換、意味合いがよく分かんないんですけども。これ、アンケートを取ることを審議みたいに見えるんですけども、議員定数と書いたほうがいいんじゃないかなと思うんですけども。これやったらもうアンケートを取るか取らないかというようなニュアンスで受け取るんですけども。その辺、どういうふうにお考えになったのかというのを思います。あとの2件についてはもう実施されているので、問題ないかと思っております。

そういったことで、議員定数のみでこの1年やっていくような感覚でスケジュール組まれているんですけども、ほかの案件も並行してできるのであればやっていけばいいんじゃないかなとは思いますが。分からないところあったんで質問させていただきます。よろしくをお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

先ほど私も説明が足らなかったかと思いますが、緊急を要する案件については並行しながら協議するというのを先ほど申したと思いますが。これ、表の表し方が悪かったかなと思います。それから言葉が見当たらなかったのも、一応決定という言葉使ったんですが、この決定も、ここはこうしたらいい、ここはああしたらいいとかいう問題が出れば、メインは優先的には定数問題にしなからでも、並行して意見が出れば審議していきたいということをお私に説明したつもりなんです。この表と私の説明が若干不一致になってるのかなということもございますが、以上で理解できましたでしょうか。どうでしょうか。

北地委員。

○北地委員 緊急で、そういうふうに皆さんから意見が出てからやるというではなしに、最初からスケジューリングしとったらどうかと思うんですけども。その辺、皆さんの御意見はどうなのかなと思いますけども。ある程度スケジューリングしとかないと、令和5年の1月から半年間しか期間がないわけで、これで方がつく問題があるのかなと。結構ヘビーな問題もあると思いますんで、その辺のスケジューリングがもう少し考えていったほうがいいんじゃないかなとは思っています。

それと、先ほどのネット中継なんかはもうまた審議をすると。それをどの辺からするかとか、その辺が表れてないんで。これも令和5年1月からやるということなのか、その辺の確認をしたいところと、先ほどの5番目の表現はこれでいいのかどうか、その辺お願いいたします。

○網谷委員長 委員会のネット中継となると、私が喫緊の課題は並行してやると言ったんですが、実行するとなれば、次の予算特別委員会は3月になりますので、そういう意味で喫緊の課題は並行してやるという文言を使ったわけがございます。

それから、議員定数市民アンケート、議会改革報告会での意見交換、これも令和元年の、皆さんからの意見を聴取したときの文言そのものでございまして、これも少しタブレット

載つとるかどうか確認してないんですが。扱ったんですよね、前委員会で。その前に私の記憶では、時間も費用もかかるということで、これはできないのではないかとというような文言になったかろうと思います。これもあくまで私の記憶ですから。あまり長い協議をしなかったというのは覚えております。

それで今回、その他の意見として定数削減の問題が大きくクローズアップされたということで、これを扱わざるを得ないのではないかとということで、こういうふうに私なりの案を出したということでございまして、これはもちろん皆さんの意見がそろえば、幾らでも変えても結構だと思います。ということでよろしいでしょうか。

副委員長。

○西村委員 私のほうから、私の思いですが、例えば13番目にありますよね。委員会中心主義を本会議中心にと。これも令和5年1月から協議していくんだったら、前から言われる委員会を本会議中心に言えば、この中にあります委員会のテレビ中継とかネット中継、それからずっと下に降りてきて、委員会の中で、例えば予算、決算特別委員会の常任委員会化しようとか、そういうものに皆つながりが出てきておる。

そしてもう一つは、ここにありますが、そういう意味で15項目の中、もう少し絞ったらどうかという思いと、その中から要点で。

先ほどから議員の定数のことをしきりに言いますが、議員の定数をするための議会改革でなしに、議会本体を改革しようというのが、私も委員になって感じたところなんです。もっともとの的を絞ったような協議をしていって、その中に議員の定数問題も足してもええけど、そうでなかったら最初から議員定数ありきじゃ、市民アンケートを取っても市民は大喝采しますよ。そんなもんじゃないんですよ。過去の先輩諸氏が、当初からずっと議員定数、30人から今日まで16人まで減らしてきたけど、それは人口比率、そういう地域性のことも含めて市民一人頭2,000人ぐらいに1名の議員でどうだろうかというような設定の中でやってきたというのを、一部の人から私が聞いた覚えがあるんです。それはそれとして、やはりそういう声、そしてもう一つは議員の声が出てこない地域ももう既に市内にはあるんですよ、何か所も。そういう意味で、議員を減らしたらいい、言い換えれば、減らした分で歳費を上げりゃいいわ、これ議員の勝手な言い分。もっとも市民のことを考えたら、私は議員定数も大事なんです。議会本体をどうするかということを考えると、定数減らしたら委員会の人数も減ってくる。本会議だけでやったら、本会議がずっと延長になってしまう。そういう意味で、大竹市は委員会制を採用して今日まで議会運営やってきとるんで、そこも皆さんで、もう一回私は考えるべきじゃないかというのが意見でございます。

以上でございます。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 西村委員がおっしゃった、その地域の声が届かない、それは私は違うと思います。我々は、例えば私は新町2丁目に住んでおりますが、新町2丁目の代表者じゃないんです。市全体の代表者なんであって、自分の地区から選出されていなかったら、阿多田とか栗谷とか選出されていないわけであって、そうじゃなくてまず、それは職員も議員も全

体の奉仕者であることが大事なわけであって、自分の地区やからどうのこうの、そういう話では、私はないと思います。

それで、別に私は言ってますけど、それをプライオリティというか優先順位の第1位だと思いますので、定員削減、私それが、要するに定数削減するのかもしれないのか、そういう取り組みをするのかもしれないのか、市民の方に見てもらわないとあかんと思いますよ。実際、何かもうやっぱり定数減らさなあかんで、選挙にならんのやったら定数は減らさなあかんでというのが大きいわけであって、それでそれに、まず自分、その議員が自分が身分を失うのが嫌だとか、そういうので定数削減にもし反対しとるとしたら、もう全くもってナンセンスとしか、私は言えないと思います。それはやっぱりこの期に及んで、あんな中継がどうのこうのって、あれ2年間にわたってやるような仕事だとは私は到底思えませんので、私は順位で定数削減を2番目ぐらいに、1年間でやって2年目には定数削減のをやるのかなと思った。だから、もう失望したという表現をしたわけで、その最後のときに。次でやるかって、いつまでもいつまでも手をつけずにおける問題じゃないというか、事はしっかりと認識していただかなければ、ほんまのこと私は思います。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

小中委員の主張はよくよく分かります。ただ民主主義ですから、皆さんの意見も。ということでもよろしくお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、何かなし崩し的に議員定数についての話が始まっちゃってる気がするんで、議員定数の話をやるかどうかというところを、スケジュールとしてもうやりますとなれば、話をしていけばいいと思います。なので、そこ決めてほしいなと思います。なので、やるのかやらないのか、このスケジュール感でどうかという意見も出ましたけど、やったほうがいい、やるべきだと思いますけど、じゃあほかの項目どうするのか、もうこれ1本に絞るべきという意見もあります。ただ、ほかのSNSだったり、中継だったりも並行すべきという意見がありますので、僕個人の意見としては、ほかの意見も上がって来ると思います。議会改革特別委員会ですよね。議員定数特別委員会じゃないんで。なので、今日の日程みたいに、日程1でSNS、ホームページとか中継について意見を募ると。そういうところも、決算も試行段階なので、じゃあ試行が終わって中身の検証をして、実際ルールづくりはどこがするのかという、決算特別委員会が終われば決算特別委員長も外れるわけですから、できるのは議会改革特別委員会なんじゃないかなと思います。なので、芯として議員定数はあるが、ほかの項目も随時やっていくということ。今まで2年間の議会改革特別委員会を引き継いできているわけですから、その流れも持ちつつ、やっていったほうがいいのかなどは思います。議員定数という項目に変えていただくほうが取り組みとして、何か定数削減というと削減ありきなのか、どういう方法が最適解なのかという議論をまだ今日始まったかなぐらいのところだと思うんで、議員定数というタイトルにして議員定数は常にやっていく。それで、ほかの項目はちょっとずつ出てきたものに関しては、意見を持ち寄るというところで、そこまで議員定数の話が進まないとかということはないと思います。今まで2年間の議会改革見ても、SNS、中継等そんなに長い時間、喧々

諤々とやるわけではなくて、感じたこと、不安だったところ、修正すべきところというのをちょっとずつ上げていだけだったので、できるのかなとは思いますが、そういう方法がいいんじゃないかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、議員定数のテーマということで、これはこの5番目は議員定数の削減と書いておりませんので、議員定数の市民としてのアンケートとなっておりますので、削減とか増量とかこれ全然書いてありませんので、それのところは御理解いただきたいと思います。ですから、これから議論する中でも下げるのが目的ではございませんので、現状維持でも上げる場合もいろいろ範囲は広がりますので、それのところを議論をしていただきたいということで。小中委員の場合は確実に削減という表現を使っておりますが、あくまでも議員定数の問題でございますので、その辺のところは御了承いただきたいと。

○小中委員 私、別に削減は自分の意見であって、だから削減するのかもしれないかということにおける結論は出すべきだと言ってるわけで、だから議員定数削減ありきとか何とかいうんじゃないで、議員定数をしないんやったらどうするのかと。要するに無投票を回避するには、どういう方法があるかという、現実問題としてね。そういうことなんで、私、別に定数削減にならなくても、委員長がまさしくおっしゃるとおり民主主義なんで、別にならなきゃならないでそれは仕方ないですけど、だからお互いにどういう意見を持ってるのか、例えば無投票になったらどうするのかと。16人議員全員の連帯責任なんかという話にもなってくるんだけど。そういうことを言ってるんであって、私は定数削減ありきで言っただけじゃなくて、別に定数削減しないという、ちゃんとした理由をこの委員会として示せるなら、それはそれでしょうがないと思いますよ。多数決取って議員定数減るのが嫌だという人が多かったら、それはそれでしょうがないことですから。それに対して私は何らかの言ってるわけじゃなくて、要するに定数がどうなるかという、どういうふうに審議の結果があったかというのは市民に示さなければいけないんじゃないかと私は思いますということで、定数削減ありきで絶対定数削減せなあかんと言ってるわけではございませんので、誤解のないようにお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういうことでございまして、ほかに意見はございますか。

日域委員。

○日域委員 今の話と違いますけど、さっきどこありましたよね。本会議、委員会主義じゃなくて本会議というのがあったじゃないですか。多分あれうちの会派から出たんですけども、あれはこの委員会の中継もできるじゃないですか。あれをする前に、本会議場だったら中継できますよね、テレビ入るとるから。あっちでやれやというような意味合いですから、もうこの仕組みが今ありますからね。それはあそこで委員会やったら、執行部を入れんわけですから、それはこっちが優れてるに決まっておりますから、あれはもうほぼ取り下げみたいな形でいいと思います。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 今、多分議論してるのは、このスケジュールどうするかということだと思うんですけど、先ほど西村副委員長からも話がありましたように、まとめられるところ、似たようなもの、上手に提案項目としてまとめられるところもあると思いますし、その辺は、まとめられるところはまとめてもいいと思いますし、今、小田上委員も北地委員も言われたように、例えば5番で言うと、提案事項のところをもう少し議員定数問題とかということで、その細かい内容とかについては、またその中でどういうことを議論するかというのは話していけばいいことかなと思いますし。

私が気になったのが、委員会の目的のところ、2番目のところに議員のなり手不足に関する解消は何かと書いてあると思うんですけど、これも5番の議員定数の問題に関わることかなと思いますので、その辺を上手にこのスケジュールをもう一回少しまとめて、何を、議員定数の問題はやらなくちゃいけないけれども、その中でほかにもどういうことをやっていくかとかということも、柔軟的にやっていくんだと思うんで、それをもう少しまとめてられたらどうなのかなというふうに思うんですが、皆さんいかがでしょうか。

○網谷委員長 今、副委員長の案を原田委員がどうかなという意味合いのことでよろしいんですか。まとめるということで。ということは15項目を10項目にするとか、15項目を7つでも8つでも絞り込むという意味ですかね。

○原田委員 絞り込まなくてもいいんですけど、上手にまとめられるものはまとめて、北地委員のおっしゃるように、どういうことをやっていくのかというスケジュールをきちっと立ててやっていくと。議員定数の問題はもちろん絶対これやらなくてはいけないとは思いますが、それだけではない、西村副委員長からも言われたように、やっぱり議会改革ということ、小田上委員からも言われた議会改革ですので、それだけではないですから、それと並行してどういうことをやっていくかということ、これだとやっぱり1本になってしまうので、その辺りの整理をもう一度する必要があるのかなと今、皆さんのお話を聞いてて思いました。

○網谷委員長 それとその工程ですよ。審議をする工程をどうするかという意味のことですかね。北地委員が言われたことになるんですかね。もう一度、北地委員、説明していただけますか。すみません。

○北地委員 今、言われるとおりであって、今日は、今の審議を今後どうしていくかというのを審議している場だと思うんですよ。委員長が作られたこのスケジュール案がありますが、内容的にもさっき日域委員も言われたように、もう要らないよというものもあるかもしれませんが。ただこのスケジュールでいくと、もう議員定数のアンケートを取ること集中してやるように感じるんですよ。だからその辺は、この項目の名前も議員定数についてぐらいにしといて、それは柱として1本やっていくと。そのほかもできる部分はあるかと思うんで、いつやるかというのは、話をせな分からのですけども、その辺も含めつつ、1本だけのような形になつとるんで、あとの残りの令和5年1月からの半年で残りを全部やるというのは到底無理な話なんで、これを前倒しにしながら、合わせてやっていったらどうなのかなと。その辺の再度、もう委員長で検討していただいたらどうなのかなというのが、さっきの意見でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

確かに私が作ったんですが、あまりにも単純過ぎたということもあろうかと思っておりますので、この件に関して、今の原田委員、北地委員、西村副委員長もですが、この案でもう一回、練り直してもよろしいでしょうか。

日域委員。

○日域委員 それはぜひお願いしたいですけどね。例えば、これ私しか言わないですけども、この中に12番、本会議の5回の分ですね。これ広島県中で回数制限してるのは大竹市と広島市だけなんです。一番最後に、議員の能力、レベルアップって、これ言うのは簡単ですけど難しいです。でも、一般質問しているときに、回数何回やったかなって考えるだけで、脳みそ使うんです。それでしゃべることがおろそかになるんです。自由にしゃべれたら物すごい、この前の決算もそうですけども、予算決算って時間制じゃないですか。やりやすいですよ。昔は回数でしたから、1編に十ぐらい質問するんですよ。当然、答弁漏れもあるし、質問するほうも難しいが答弁するのも難しい。そういうちょっとしたことなんですよね。これなんかどうしようかって、みんなが反対ならそれで結構なんですよ。この中に、あつという間に決まるのがたくさんあるんですよ。これ並べて、ああするこうするって入り口でもう時間大分ロスしましたけど、中身に早く入りたいなと正直思います。だから、このたたき台というかスケジュールを、ほんの少し工夫したらよくなると思います。お願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

この件に関して、大体話が、話がというたらおかしいんですが、まとまったような気がするんですが、もう一回練り直すということでもよろしいでしょうか。

ということは、私1人の知恵で到底足りないの、副委員長の方も借りてやりたいと思いますので、この件に関しては了承していただいたことにて、理解してよろしいでしょうか。

それでは計画を練り直してまいりますので、よろしく願いいたします。

それから先ほど申しましたその他の部類で、くろがねさんのほうから、原田委員から出されたんですが、決算特別委員会と予算特別委員会の中継ですよ、今2つ出た。これもこれからのスケジュールの計画によって変わってくるかと思っておりますので、これもスケジュール、新たにできたことによって、これも組み込んでいくということでもよろしいでしょうか。というふうに、締めくりさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、今回の委員会はこれでよろしいでしょうか。まずは計画できませんと、皆さんの主張も難しかろうと思っておりますので。何かまだ。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、まだ1時間たつたないかぐらいで、正直この特別委員会って開催の回数って多いわけじゃないですよ。改革が、広報広聴は特別委員会の中で2番目か、一番定例会でいくと基地周辺が少ないのかなという気はしますが、今1時間たつて何が決まったかという、何も決まってないじゃないですか。じゃあ定数の話しましたと言って、今日この委員会室を出られるかという、そうでもないなという気がするので、

定数の話はするよねという意見が今まとまったように見えるので、次回はどんな宿題を、どういうものを持ってきたらいいのかというところまでいただいておかないと、ある程度の一步踏み込んだところに入らないと、1年では間に合わないかなと。せっかく今日、委員、委員長、皆さんおられますので、それくらいはしておいたほうが後々もう中身の議論がスムーズに行くのかなと。なので、委員長がこういう進め方をしていきたいとか、定数について思いがあって、各委員はどのような準備をしてきたらいいとか、思いを述べる場がどういうふうにあるかというのが、もしあればお願いしたいんですけど。

- 網谷委員長** 今、私の思いということなのですが、私の思いは案をつくった時点でこういうふうに一応描いとったんですが、これを口頭でこれを並行して協議をしていくということに説明したんですが、それでは口頭ではよく分からないということで、もう一度書き直すということで。それからそのスケジュール表によって、それを皆さんが了承していただければ、それによって皆さんと協議の内容も分かってきますので。次回までは、あまり具体的な内容決まってませんので、今の話では。まずはスケジュール表を作って、これこれこういうのが出たから、これに合わせてこれを優先的に協議しようとかいうことも出てくるとか思いますので、そういう方向で、宿題を出していただいたらということもありがたい言葉なんですけど、今の時点、私の中ではそこまで頭が回転してませんので、これから副委員長としっかり協議して、今回はロスになったかも分かりませんが、次回から小田上委員が言われるような次の会にまとめる、腹積もるといいますか、そういうのも宿題として出していききたいなと思います。

小田上委員。

- 小田上委員** すみません、今日の日程見ても中身には入らないんだろうというところはあったので、進み過ぎたところの話はしましたが、もう中身の議論に、特に定数の話は少し入ってますよね。僕自身も正直言いたいことはたくさんあります。ただ、まだその場じゃないんだろうというところで抑えてはいるんですが、ただ、早くしたいですよね、その話を。なので、であれば、そのスケジュールを委員長から提出いただくのが、例えば、次回の委員会の際に提出だとまた意見が出て遅く、この1時間のようなことになりかねないので、事前に少し前に頂いておければ、それである程度の修正のお願いだったりとか、意見ですよね、各委員から意見が募れたりするのかなとは思いますが。

スケジュール感として明確になってないので言えないというのはそのとおりで思うんですけど、議員定数はやるということ、今日はそこだけは必ず確認をして、この改革で議員定数を今後やっていきますというのは今日示せるんじゃないかなと思うので、委員長がそれを示していただければ、僕らは委員は、次、議員定数についての意見も持ってこられるかなと思うので。すみません、それはお願いしたいです。

- 網谷委員長** もちろん今、小田上委員が言われたように、この議員定数は前回の選挙でも皆さんご承知のように無投票ということで、小中委員の名前を出して悪いんですが、非常に委員の皆さんの中では大変な、何というんですか、結論的な出すのはウェートを占めとるんじゃないかと思います。この16人の議員の中ではね。とはいえ、それが議員定数の数字をいじることによって、この無投票が解消されるとは、委員長の意見を言うてはいけん

のですが、私自身はあまりなり手不足とこの定数問題がどれほどの因果関係があるかというのは、あまり私自身はあまり思っていないところもございます。

それはそれとしましても、どちらにしましても、この16人の議員の皆さんが令和元年には洗礼を受けてないということでございますので、確かに小中委員の言われるとおり、大変不細工な大竹市の市議会の当選者ということに市民の方から見られても、これ致し方ないとおりでございます。とはいっても、これも自然と減少ですから。定数を割ったわけじゃないんですからね。16人は16人と、こうして皆さん頑張っておられるんで、そのようなところを議論は、これからメインテーマになることは確かだろうと思います。私の気持ちの中ではね。それから。

藤川委員。

○藤川委員 はい、申し訳ありません。今もうやっぱりもう内容に入ってるような感じの委員長発言だと思います。5番ですね、やっぱり皆さんの意見、すみません、今日私コロナのワクチン注射打ってまだ2日目なので、もうろうとしながら発言させてもらってますけど、5番ですね、これ今までの引継ぎのタイトルなんだとは思いますが、もう議員定数について、ビッグタイトルを議員定数についてという項目に変えて、このアンケートにしても議会報告会での意見交換でも、これはやるやらないというのは、もう多分内容に入ってくると思っていますので、ここだけでも変えていただいて、協議についてはまた今後していくという形になるのかなとは思っています。ここはもう5番は議員定数についてと。私の意見ですからね。もちろん皆さんに諮っていただきたいんですが、変えていただければなと思います。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 小田上委員が言われたこと全く同意見で、まず先ほど言ったまとめる、しっかりこれをまとめるんですけど、もう今、話を聞いてますと、実際もう定数の議論に入っていると思っておりますので、まとめる作業はまとめる作業、これをどうするかという工程表を作るというのは並行してやっていただかなくてはいけないかなと思うんですけど、まだ時間も十分にあることですし、定数の問題というのはもう確実にこれはもうやるということで決まってるかなと、もうこの雰囲気はですね。なので、もう今からでもいいと思ったり、仮に次回やるとしても、じゃあ定数のどういうところを議論していくのかというところを、別に決めても全然私は構わないんじゃないかなと思うんですが、その辺り皆さんいかがでしょうか。

○網谷委員長 意見を聞いとりますと、どんどん定数の問題の中身に入っていくような気がしますが、入ってもいいですがね。いいんですが。

日域委員。

○日域委員 さっきから堂々巡りみたいな気がするんですが、定数を減らすことを今決めようというあれじゃなくて、議論に入ろうと。ほかのこともたくさんありますけども、やっぱり一番目立つというか、どうしても意識がいくのが定数ですから、それだけはこの場でこの委員会で定数問題を議論するというのを、とりあえず今日決めようというのが、小田上委員のさっきの発言だったと思うんですけども。それはもうぜひ決めてほしいですけ

ども、加えて次回でまた1からしゃべるんじゃなくて、今回の提案みたいにあらかじめ意見のある人は文書作って事務局に送ると。そうしたら、この人はこんな考えだ、この人はこうだと分かるじゃないですか。それが踏まえてあるだけでも、次の委員会は効率よく進みますからね。やっぱり、だから小中委員みたいに定数削減ありきの方もおられるんでしょうけども、小中委員をぶっ飛ばすような理屈があるんだったら、それはあってもいいじゃないですか。小中委員がひれ伏すようなことが書けるんだったら書いてみるやって、私思いますよ。それが言えずに議論を抑えようというのは間違いだと思います。ちゃんと論陣を張るといいますか、理屈をこねて、しゃべくりの場ですから、ぜひそれでよろしくお願いします。

○網谷委員長 今回の日域委員の意見ですが、どうですか。

小中委員。

○小中委員 ですから、定数削減じゃなくて、定数問題についてでも何でもそれは構わないんですよ。構わないですけども、例えば次回までに、例えば個人個人がいわゆる定数問題についてどういう思いを抱いているかということメールで事務局に送るとか、いわゆる議論の一手手前の材料を提出するというようなことぐらいはできるんじゃないかと思いますが。日域さんがおっしゃったように、そんなことでええんやないかと私は思いますけど。また最初に1からやったら意味ないんで、と思います。

○網谷委員長 これは日域委員、先ほど文書でというのは定数問題に限ってという意味ですか。定数問題に限って。この意見に対してどうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 中身がどんどん進んでいけばいいと思うので、事前に意見を提出というのに賛成です。はい。

○網谷委員長 皆さん、その方向性は賛成ということでよろしいですか。1個ずつ決めていきましょう。まず今の、定数問題に限って皆様方の考え方の文書にして事務局にメールで送ってもらおうということでよろしいですか。

それでは、そういうことで文書にして、皆さん送ってください。期限はどうですかね。今日は20日ですよ。月末ぐらいに、10月の31日までぐらいに、しっかり考えて文書作って送ってください。お願いします。31日までです。31日は日曜日だね。金曜日までじゃけえ29日までをお願いします。この事務局にメールを送る作業ですが、遅れないでくださいね。遅れたらもう締め切りますので。それだけよく頭に入れてってください。お願いします。

では、この皆様方のこの文書を送っていただくことを決めさせていただきます。

ほかに何かありますか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、次回開催日に関わってくると思うんですけど、次回開催日があって、なぜ今月いっぱいなのか。会派の中で話もしたかったりもあるんで、少し時間が欲しいなというところで、次回の開催日が分かれば、それよりは早く提出して、事務局がまとめて委員長が読まれてというのももちろんあると思うんで、それを十分考慮した

上での期限決めのほうがいいのかなど。

○網谷委員長 今、ざっと言うただけのことですから、それはもちろんありますよね。そういうのがね。

○小田上委員 文書と言いましたけど、定数についての思いをどんどん書いていっていいということですか。分かりました。

○網谷委員長 まず次回の開催日を決めさせていただきます。次回は、何日の週がありますか、局長。議長のスケジュールもあろうかと思っておりますので。

局長。今日が20日ですから。

○三上議会事務局長 8日の週ですかね。

○網谷委員長 8日の週は。

○三上議会事務局長 8日の週は水、木、基地議連の要望があります。15日の週は午前中予定が入っております。17日、18日予定入っています。22日の週はもう議会が始まりますので、22日が議案配付になります。それで25日がもう議会運営委員会と。

○網谷委員長 17日、18日が入ってるということ。

○三上議会事務局長 17日、東京要望に行ってますので。

○網谷委員長 17日、18日はいないということ。

○三上議会事務局長 はい、いません。今日も議長いませんけど、議長がどうしても必要なかどうか。

それと、先ほど小田上委員が言われた定数問題についてやるというのは、ここ確認をしないでいいんですか。ずっと何回も北地委員と小田上委員が、何回も言われているんですけど、結局宿題は出ているんですけど、やるというのが宣言といいますか、決定がされていないと思うんですけど。

○網谷委員長 定数問題。

○三上議会事務局長 それは、よろしいんですか。

○網谷委員長 定数問題は私が最初からメインで、優先順位を一番に上げるということで、それから決めにゃいけんということか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、委員長にこの議会改革特別委員会でこれから議員定数について議論をしていくということで、皆さんよろしいですかと言うと、言っていただくと、異議なしと大きい声で言いますので、よろしくをお願いします。

○網谷委員長 今、小田上委員が言われましたように、私が最初に言ったと思いますが、これは大変大きな問題でございます。議会にとって。それで前回も無投票という結果になりまして、今回の、あと2年でございますので、私自身、定数問題は欠かせないということで、あと2年の間に定数問題をメインに協議していただくということに、皆さん賛成でいただけるのでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○網谷委員長 異議なしということで、いろいろな項目にももちろん並行して協議をしますが、優先順位として一番に上げるのはやはり定数問題であると思っておりますので、皆さんよ

ろしくお願いいたします。そのためには、先ほど申しました文書しっかり考えて作っていただければと思います。あまり長いのも分からなくなりますので、せめてA4、1枚ぐらいでお願いします。

○藤川委員 すみません、5番の提案のほうは変わらないままですか。

○網谷委員長 5番、今から、これから副委員長と協議して、ほかの名目がありますので、それも含めてもう一度やり直しますので、そのところは御了承願います。

局長、19日はどんなんですか。オーケー。午前中。ということは、次回は11月19日午前中10時ですね。それで19日ということなんで、先ほどの文書の締切りを11月の10日ぐらいにしたいんですが、どうでしょうか。それでは、文書の提出日を11月の10日の水曜日に文書の締切りをさせていただきますので、忘れないようにお願いします。これ10日以後にはもう扱いませんので、はっきり言っときますが、お願いします。

ほかにまだありますか。今日言っておきたい、この今のスケジュールに関して何か言っときたいことがあれば。

北地委員。

○北地委員 委員会のペースは月に1度と考えていいですかね。

○網谷委員長 初めに言わなかったですか。

委員会の開催日は大体でございしますが、月に1回程度を予定しております。お願いします。これが2回になることはあまりないかと思いますが、定数問題でどういうことが起きるかわかりませんので。基本的には月に1ぐらいに予定していただいたらと思います。よろしくお願いします。

ほかにございしますか、何か。その他のほうに入ってないんですが。ほかに。かなり皆さん発言されておりますので。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 なければ、次回の11月19日の10時からということで。それで文書の提出日が10日中ですね。お願いします。

以上で、議会改革特別委員会を閉会とさせていただきます。

お疲れさまでした。

11時15分 閉会